

5人に2人は55~69歳

しんわだい

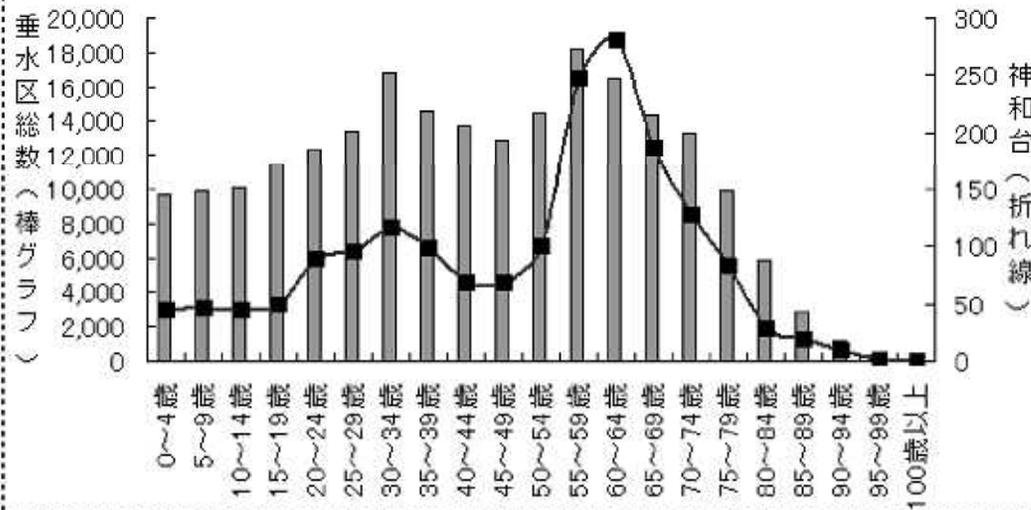
神和台の人口構成をグラフに

25%が65歳以上

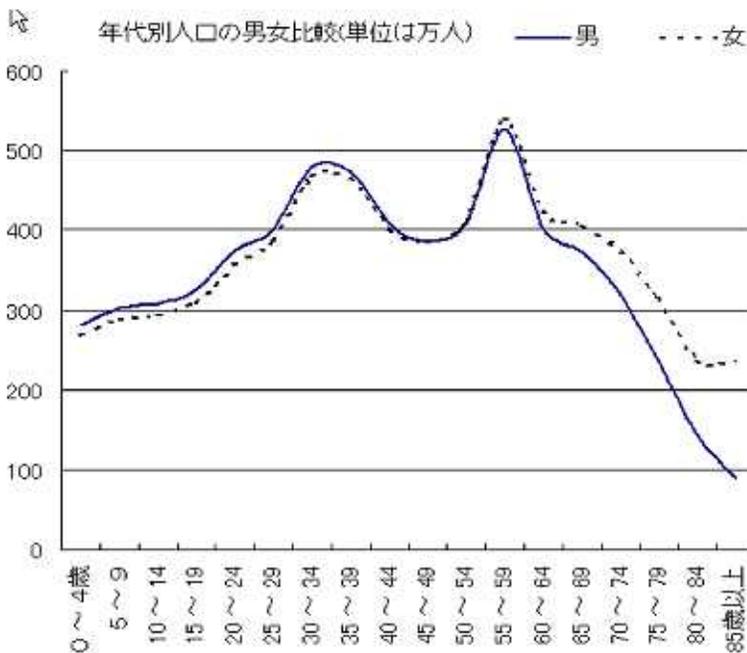
子ども少ない
が増加の傾向

地域情報紙
「しんわだい」
通算第86号
2007年6月25日

垂水区と神和台の人口比較



四月の自治会総会で神和台の人口構成の質問があったので、神戸市ホームページから平成17年度国勢調査の数字をグラフ(上図)にしてみました。(3面に関連記事)



垂水区のカーブ(棒グラフ)は日本全体の分布(下図)に似て、団塊の世代がピークですが、神和台(折れ線グラフ)のピークは、五歳右にずれています。つまり60~64歳が最も多く、一五・四%(垂水区全体では七・四%)を占め、前後合わせた56~69歳は実に三九・四%(垂水区二二%)

大きな山がいわゆる団塊の世代です。太平洋戦争が終結し多くの復員兵が内地へ戻り空前の結婚ラッシュが生じました。その結果ベビーブームといわれる出産数が増加しました。

日本の構成 ピークは団塊の世代 第2の山、団塊ジュニア

次に我が国の年代別構成比を見ます。「総務省統計局」の今年5月推測データをグラフ化しました。

で突出しています。また、65歳以上は二五・一%(垂水区二一・五%)とやはり比率が高くなっています。一方、0~14歳は神和台七・五%(垂水区一三・三%)と低く、団塊ジュニアといわれる30代になると、六・四%で、垂水区(七・五%)にやや近づいています。

神和台が開発された当時は、家を持つ余裕のなかった働き盛りの人々が多く入居し、そのまま年輪を重ねている状況です。老人会の入会資格や、お祝い制度も財政面での見直しが必要になるでしょう。

が増加しています。この山以後、人口が年々少なくなっています。生活が豊かになり乳幼児の死亡率も低下する中、少くなく生んで教育費を一人の子どもに注ぐようになりました。また晩婚化の傾向も少子化へ影響を与えています。

堺屋太一氏が「団塊の世代」と命名し、「昭和22年(1947年)から、26年(1951年)ごろまでに生まれた人々」という定義をしました。その人たちが一斉に定年を迎えるのが今年で、いわゆる2007年問題と言われています。日本の高度経済成長を支えて、従来の価値観に捕らわれないアイデアを持ち続けた世代が地域社会に入ってくる時期になりました。これらの方々が、自治会活動にどのように参加されるかで、新しく住みよい街が育っていきます。

各年齢の平均余命は

	男	女
50才	30.59	30.70
55才	26.21	26.33
60才	22.06	22.17
65才	18.11	18.21
70才	14.38	14.51
75才	11.07	11.23
80才	8.23	8.39
85才	5.93	6.07

(神和台ネット)

自治会長を
引き受けて

この街が「ふるさと」

子どもにも、お年寄りにも



徳永明自治会長

今年度の自治会会長を、引き受けることになりました。

徳永明自治会長 徳永明 今年度の自治会会長を、引き受けることになりました。徳永明自治会長は、今年五十五歳。先日の連休に田舎に帰りまして。こちらに来て三十年以上経つのに、母や妹と話す時にはなまりが出ます。以前中学校の同窓会に帰った時、卒業以来三十五年近くご無沙汰の友達とも、いきなり下の名前で呼び合っている、中学時代にタイムスリ

ッブしました。社会人になって知り合った人とはまづ無理なことです。生まれ育った街だからこそ出来ることだと思います。

この街で生まれ育った子供達は、この街がふるさとです。神和台も高齢化が進んで、お年寄りが増えましたが、一方で子供も増えています。その子供達がより良い環境で育ち、巣立って行ける街、出身地を尋ねられたら、「神戸の神和台です」と胸をはって答えられるように、少しでもお

副会長です 住田元則さん 坂田広村さん 廣田成己さん



住田元則さん



坂田広村さん



廣田成己さん

それには、住民の皆様が当たり前前の事を普通に出来るように、少しづつ、いいなと思っています。しかし、通う子供達は、現代っ子、テレビの影響も

ボランティアの願い

名谷小学校の歴史は、聞くところによりますと、百三十年以上とか。開校は明治十年前後という事になりますね。その時代では、おそらく、山と田園の中の分校といった風情だったのでしようね。いずれにしましても、古い歴史のある学校です。

学校へ通う子供達を見守って感じる事は、古い歴史の重みが、今日もお残りっているように思われます。素朴で、ゆったりとした校風は、私はとても好きです。

「春の小川はサラサラいくよ、岸のスマレヤレンゲの花に、姿やさしく美しく、咲いているね」とささやきながら...とい

名小生は仲良く、元気

ゆったり校風 6年間無事故で

受けますし、昔とちがう子供同士の人間関係も、ケンの仕方違うように思いますが、神和台から通う子供達はみんな仲よく、元気で、ちよつとしたトラブルはあっても、また次の日は仲よくなって、通ってくる子

来事がみえてくるように思っています。どうか時間の許すかぎり見てやっていただきたく思います。都会の中にあっても、自然の残る通学路、谷小学校での六年間、どうか、無事故で、すくすくと育ってくれる事、見守り、祈ろうではありませんか。

毎週火曜日午前10時半から12時まで、集会所を中心に、さまざまな活動を計画し楽しんでいきます。みんなで手を取り合って、一緒に子育てを楽しみましょう。

遠足だ！遊具にまっしぐら

うりぼ-KIDS みんなで子育て楽しもう



「うりぼ-KIDS」は未就園児の子ども達とお母

つしぐら。親そつちのけで夢中で遊んでいました。と

五月十五日に垂水健康公園へ遠足に行きました。広い芝生、面白い遊具に子ども達はま

るように、少しのワガママを控え、一歩勇気を持った行動を取れば、出来ることだと思えます。駐車問題、ペットの糞、ゴミのポイ捨て、収集日以外のゴミの問題。大人の対応が取れれば何の問題も無いことですが出来ない方が いらっしやるので自治会の出番になっ

てしまいます。その自治会も誰もが参加出来るように、夏祭りがこれから先も続けて行けるよう、規模は変わらせず、簡単に出るような取り組みをしていきたいと思っております。今年自治会としての特別なイベントはありませんが、もうすぐ三十年を迎

えようとしている今、住民の皆様が主役として、より良い生活を過してもらい、自治会は脇役として支えられるよう、全役員が役職をまっとうして行こうと決意しております。どうか自治会の活動を理解して頂き、ご協力のほどお願いいたします。(徳永 明)

(2丁目 生方)

(3丁目 長井正)

声掛け合い、いたわりあって

楽しかったドッジボール大会 子ども会新一年生歓迎



名谷小の体育館でがんばりました

神和台子ども会の新一年生歓迎ドッジボール大会が五月二十一日、名谷小学校体育館で開かれました。今年の新一年生は昨年を上回る二十人、会員総数は七十九人に増えました。



当てられても ドンマイ ドンマイ

この日、一、六年生六十八人と、お母さんから二十九人が集合、岡田真理会長の励ましの挨拶のあと、ルール説明があり競技が始まりました。低学年、高学年それぞれ二チーム、計四チームでリーグ戦による対戦。低学年チームには、有志のお母さんも競技に加わるなど、熱戦が繰り広げられ、高学年Dチームが優勝しました。全員が楽しく、のびのびと活気のある大会でした。

△お母さんの感想▽

★低学年から高学年まで一緒に遊べたことに意義がありました★大丈夫？と声をかけたり、やさしく投げたり。子ども会活動も捨てたものではないなあ★子供の成長を感じるとともに、

親も子ども成長／活性化につながる

地域の方々に見守られながら親も子ども成長していくのだ、と感謝したい気持ちで一杯★神和台にこんなたくさん子供がいて、こんなに元気なのか、と驚きました★子供だけではなく親も楽しむことができました★今後も続けてほしいし、ミニ

神和台情報ファイル

かけがえのない機会 岡田真理会長の話 にかがえのない機会 やかな子ども達の笑い声が響き渡り、高学年の児童が低学年をいたわる様子が次第にみられるようになるなど、かけがえのない機会となりました。ご協力いただきました方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

【転入】

北野 武 (1・14・5)
安達カズエ (3・8・7)

【転出】

宮崎 薫 (1・5・6)
大西 幸重 (1・11・14)

【おめでとう】

佐々木 真生 (2・3・2)
岩崎 昌義 (2・3・2)

【おめでとう】

安達 達三 (3・3・3)
豊田 光三 (3・3・3)

【おめでとう】

野山 信雄 (3・3・3)
高津 進一 (3・3・3)

【おめでとう】

仲堂 晋吾 (3・3・3)
堂本 久子 (3・3・3)

団塊の世代のおもい

「老老支え合い」システムを

団塊の世代が定年になる今年は「2007年問題」として新聞紙上等をにぎわせています。この先頭集団のひとりである私は大いに関心をもって見ています。ところが時々、「ナットクできない！」と思うことがあります。それは、私たちが数を一面から捉え、これまでの枠にははまりきらないため、不安をおおるような記事になっている場合です。

私たちはこの六十年間、入試、就職、結婚等の節目毎に「枠外の身の処し方」の試練を受け、それぞれが無意識のうちに切り開く力、行動する力、対応できる柔軟さを身につけてきたように思います。ですから、思考回路と行動パターンから団塊かどうか、かぎとれます。不試みができればとも思っています。

（足立隆子）



「箸の上げ下げ」―これは文字どおり、食事で箸を上げ下げすることで、日常のちよつとしたこまやかな動作をさす。日頃お世話になつてゐるこのことば、日常ではうるさ型の姑を「箸の上げ下げにも口出しする」などあまりいいことには使われていない。お箸の歴史をひもどくと、神代のころから存在したと古事記にある。日本人とお箸の結びつきは想像以上に長く、深い。それなのに、我々はこのお箸を、空気や水と同じように当たり前のこととして、粗末に扱つてはいないだろうか。

箸の上げ下げ

持ち方で分かる親のしつけ

箸の持ち方、運び方は長い月日と伝統で、おのずから効率的で美しいV正しい箸使いの動作(作法)が決まつてきた。もちろんどんな持ち

方でも食べることに支障はない。だが、その人の一生に付きまとうことだから、自分だけでなく見た目にも美しく品のあるものに越したことはない。TVの画面に食事のシーンがよくでる。人気者のベテラン芸人が、地元自慢の料理をいかにもうまそうに

「いつごろから箸を使えるようになったかV―この問いに、即答できる人はまずいない。大方の人は乳離れしたころから、母親や家族に厄介をかけながら、知らない内になんとか箸使いを会得して、そのまま成人する。本人がそのあたりの経過を実感出来ていないから不幸なのだ。もし、だれかに箸の持ち方がおかしいと注意されても、この修正はなかなか難儀である。毎日のことだけに、しばらくすると元にもどる。幼児期に覚えたことはいい事も、悪い事も、そうそう簡単に更はきかない。近ごろ教育再生にからんで食育という新語が生まれている。結構なことだが、その基本は何といつても親の躰(しつけ)であろう。箸の持ち方は当然その大事な一行程である。「たかがお箸されどお箸」である。(3丁目 森下俊也)

泉さん優秀作品に 笠岡の公園で除幕式



川柳が句碑になつた

2丁目・泉佳恵さんの川柳が句碑になり、岡山県笠岡市の笠岡川柳公園に建てられました。5月19日、除

幕式が行われ、写真、泉さんも出席しました。これは、昨年行われた井笠川柳会(本部・笠岡)の川柳大

会で、優秀6作品のひとつに選ばれて、「句碑」建立の荣誉を得たものです。句は「微動だにせん一匹の冬帽子」。帽子の課題による作品で、人生の終盤を歩む一人の生きざまを詠っています。句碑の書は泉さんの自筆で、力強い文字は公園内で一段と輝いていました。川柳公園はJR笠岡駅南の古城山公園東斜面にあり、笠岡水道の眺めは抜群。笠岡の町おこしのため地元産石材を使って碑を建てています。

チーズ春巻き



おつまみにぴったり

料理です。材料V 春巻の皮10枚、豚肉薄切り10枚(手のひらサイズ)、しそ10枚、とろけるチーズ2枚(1枚を短冊形に5枚に分けておく) 作り方V ①春巻の皮の上に豚肉をひき、しそ、チーズの順番にのせる ②春巻を巻く要

我が家の簡単レシピ ビールのおつまみにもぴったりで、簡単でおいしい

領でまいて巻き終わりを水でかるくぬらしてとめる ③油で揚げて出来上がり。からし醤油でいただきます。

ちよつぱり地域活動



ゴルフ、松永さん優勝 第9回神和台ゴルフコンペが5月18日、播磨カントリー倶楽部で行われ、2丁目の松永忠之さん写真が優勝しました。嫁に仕事をリタイアしたら、少しは地域活動とか、近所付き合いも大事にとの

釣り情報

5月15日、友人二人と淡路島の沼島に釣りに行きました。朝6時半頃より20〜25センチの大黄のトツカアジ(注)が入れ食いとなつた。水深10〜15メートルと浅くそして手返しが早く、すぐにイクスが黄色く輝いて来た。午前10時半、肝心のエ

誘いを受けて好きなゴルフならと思ひ参加。20名の参加者の中に子供の友達の親御さんもちらほら参加されていて少し心強く。今回で2回目。前回と同じ水野夫妻と和やかに楽しくラウンド出来、ダブルペリアのハンドメイドにも恵まれて、まさかの優勝でした。幹事さん達の苦勞に感謝しつつ次回も楽しみにしていきます。(松永忠之)

サがなくなつた。仕方なくヒラメのノマセをやつたが当たりがこなかったもので11時半投竿、久しぶりの大漁の釣果だった。全部で四百五十四匹、大満足でした。ご近所に配り喜んでいただきたい。釣りの連絡先は南淡路市沼島2274、浜辺義幸「海心丸」(ホームページで検索)、電話0799(57)0706。アセス垂水ジャンクション西淡三原出口土生、車で1時間半、土生港まで釣れる魚4〜11月(アジ他)、11〜3月(鯛、ハマチ他) 料金3名で3万5千円、クーラー空っぽでは帰さない。トツカアジ関アジ、関サバと有名ですが、沼島のトツカアジは東京で有名。(3丁目 作田仁人)